

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

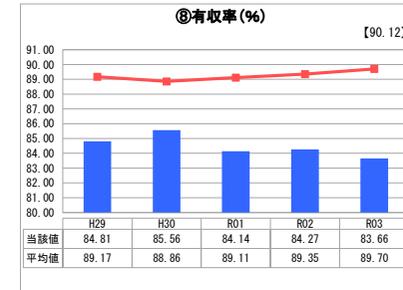
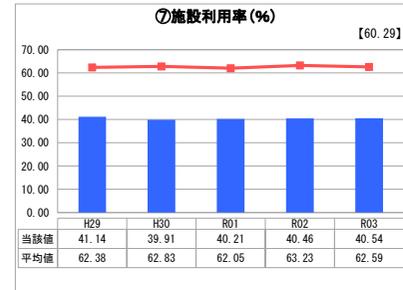
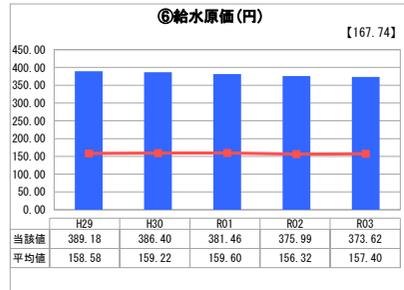
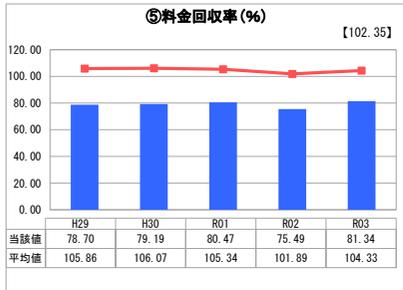
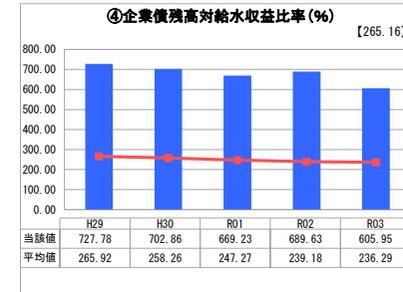
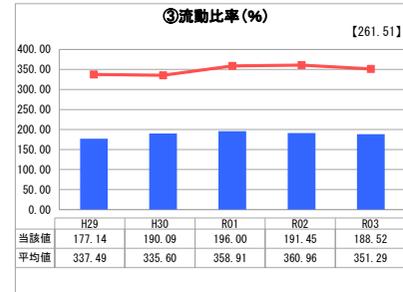
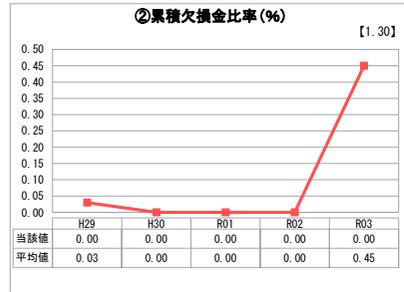
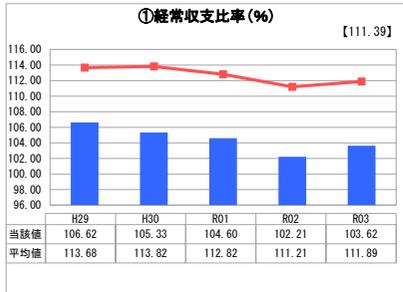
兵庫県 淡路広域水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	68.46	99.54	4,510	

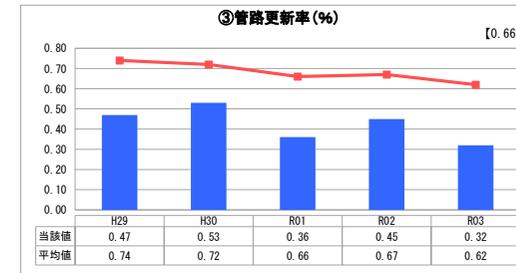
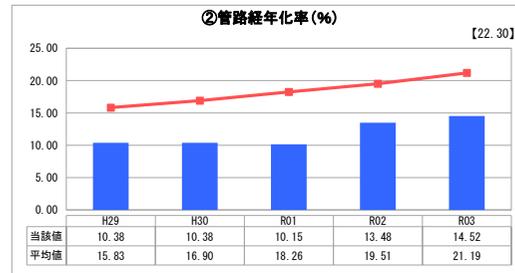
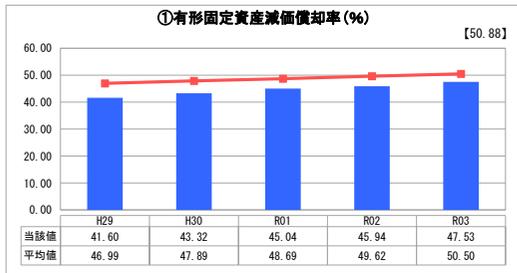
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
129,478	358.13	361.54

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経営収支比率は、支払利息等の減少から、100%以上を維持しています。
- ②累積欠損金は発生しておらず0%です。
- ③流動比率は、流動負債（企業債償還金、未払金等）の増加から、前年度に比べ下落しています。
- ④企業債残高対給水収益比率は、給水収益が料金減免を実施した前年度に比し増加したことから、下落しています。
- ⑤料金回収率も、給水収益が増加したことから、改善しています。
- ⑥給水原価は、前年度において、料金減免にかかる県支援策として県水受水費の免除を受けたことから、増加しています。
- ⑦施設利用率は、概ね横ばいで推移していますが、今後は、基幹浄水場のダウンサイジング等の実施により改善を図ります。
- ⑧有収率は、前年度に比べ低下しましたが、今後は、調査個所の拡大等で改善に取り組みます。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、類似団体の平均値より下回っているものの、今後は上昇する見込みです。
- ②管路経年化率は、類似団体の平均値より下回っているものの、今後は上昇する見込みです。
- ③管路更新率は、地理的要因から管路延長が長いこと等が影響し、類似団体より下回っていますが、引き続き、国等の財源措置を活用しながら、基幹管路や漏水箇所の更新を優先的に進めます。

### 全体総括

淡路地域は水資源に乏しく、また山間部を多く有し高低差が大きい地形のため、施設数や管路延長が長く、類似団体と比較して資本費が高くなっているのが特徴です。

今後も、人口減等により水需要の減少が見込まれることから、施設の統廃合や長寿命化対策などで経営の効率化を図り、持続可能な水道事業経営に取り組んでいきます。